

ススキの根元に寄生する、パイプ形の花

< 植物名 >

ナンバンギセル

水やり

土の表面が乾いたら、たっぷり水やりをする。

置き場所

小形のススキに寄生させるとよい。

用土肥料

栄養分を他の植物に依存している。

植え替え

特記事項なし。

ふやし方

毎年春に、種子をススキなどの根元にまく

冬越し

特記事項なし。

使い方 鉢植え、庭植え

学名 Aeginetia indica

英名

属名 ナンバンギセル

科名 ハマツボ

性状(分類) 多年草または一年草(寄生植物)

原産地 インド、日本、マレーシア

花の色 ピンク・白

開花期 7～9月

購入時期

草丈 10～15cm

ID 1011

季節 夏 秋

JFコード 21985



冬越しと置き場所

小形のススキに寄生させるとよい。

その他の解説

日本ではススキに寄生する。別名オモイグサ。小形のススキに寄生させるとよい。毎年春に、種子をススキなどの根元にまく。1度生えたところだと生育がよい。

特徴1

葉緑素を欠いた寄生植物。ススキなどの根元に寄生する。土の表面が乾いたら、たっぷり水やりをする。

特徴2

日本を含む東アジア、インド、マレーシアに約10種が分布する多年草。ススキやサトウキビなどの根に寄生する。葉緑素を欠き、必要な栄養分を他の植物に依存する。ナンバンギセルという名は、花形が南蛮人の口にぐわえたパイプに似ていることに由来している。